

## 令和5年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

重点課題①「授業研究や生徒の学習や授業への取組度アンケートの分析をとおして、授業技術の向上を図り、効果的な学習指導や評価方法を研究する。目的意識の涵養と将来の職業人としての自覚や責任感を高めるためのキャリアガイダンスや進路講話などを充実させることで、進路意識の高揚を図る。」、重点課題②「生徒会や自律委員会を中心に、通信機器の使用に関するルールを守るための話し合いを行うなどの取り組みにより、生徒の自覚ある行動を促す。計画的なホームルーム活動や生徒の主体性を重視した生徒会活動・部活動を推進する。また、地域に貢献するボランティア活動などをとおして、生徒の社会性や協調性を育てる。」を設定し、課題解決のための方策に取り組んだ。

課題①では、他教科も含めた2回以上の授業見学や授業検討会の機会を設けた。授業検討会では、実際の生徒の行動観察にもとづいた改善案について検討を行った。「学習への取組改善達成度」と「授業への主体的取り組み度」についての生徒アンケートでは、「やや当てはまる」まで上げると多くの科目で90%を超えた。授業研究では、思考力・判断力・表現力や主体性をもって多様な人々と協働して学べる態度を育てる指導法についての研修を目的に、タブレットなどのICT機器を活用する場面も着実に増えてきた。研修を通して評価方法の工夫をさらに進めていくことで、生徒の主体的な学びへと一層つなげていきたい。また、進路意識の高揚を図るため、学年ごとの達成目標を掲げ実践し、それぞれの目標を達成した。しかしながら、進路に対する意識と目標達成に向けての取り組みは、個々の生徒によって差がある。職業観や大学等の入試制度が多様化する中で、全体と個別をうまく使い分けた進路指導の工夫が必要である。

課題②では、通信機器使用マナーや無断遅刻者数等、学校や社会のルールを守る規範意識の向上を目指した。通信機器使用マナーについては、正しい使い方の講演会や自律委員が中心となりポスターを作成し自らが意識を高める取り組みを行った結果、指導件数は目標内の数値となった。無断遅刻については毎朝の遅刻指導を継続したが、2学期以降から遅刻者数が増加し目標を超える数値となった。今後、生徒自らが校内での通信機器使用ルールや時間を守る意識を高める取り組みを継続したい。体育大会や新高祭などの生徒会主催行事では、短い準備期間であっても一人ひとりが役割を自覚して取り組み、生徒の満足度も高かった。生徒会執行部を中心に委員会や部活動、係が主体となって活動し、内容も良く生徒全員が楽しめるものであった。ボランティア活動は3年目の取り組みであり2回以上の実施率は前年度とほぼ同数であったが、生徒会を中心により実施しやすい環境を作る取り組みを行っていききたい。部活動については、文化部の積極的な参加、運動部の北信越大会や全国大会の出場等で受賞者が増え、活動の活発化に繋がっている。

学校評議員からは、達成目標の簡素化、取り組みの重点化を図り、学校評価の負担感を軽減してもらいたい。また、先生方の感じている負担感について、声を上げやすい環境になり、色々なところには反映されていくとよいと感じた。その他、授業研究に関して教員の負担を減らしつつも効果的な方策を見いだしている点も評価できる。達成目標自体が高すぎるものもあるように感じた。全体的に昨年度の評価や課題を踏まえた内容となるのもっとよいのではないかと。との意見があった。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学習指導、進路支援、生活指導、特別活動は、生徒の学力の充実、進路実現と人格の完成に向けて、本校における教育活動の柱とするところであり、引き続き重点として取り組むべき課題である。

授業研究について、気楽に授業を互見し学び合える体制を作る必要がある。教員が授業を見学する回数を増やし、教員の指導力向上につなげていきたい。

進路支援については、個人面接をとおして、それぞれの生徒に現状と志望校との距離感を把握させるとともに、視野を広げさせていく必要がある。また、入試制度に関する正確な情報を全教員で共有し、保護者や生徒への情報提供を随時行っていきたい。

生徒指導については、時間を守るということ。規範意識を高めるとのこと。人の立場や心情に立

って配慮した振る舞いができること。以上のことを家庭との連携を密にし、引き続き粘り強く取り組んでいきたい。

特別活動については、3年間継続して活動を行った生徒の充実度が高いことが分かる。このため、部活動で成長したと感じている生徒は数多くいるので、今後も部活動の充実に向け、生徒たちが成長できたと感じられるような活動となるようにしていきたい。

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 新湊高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の授業技術の向上と生徒の自ら学び考える力の育成</li> <li>・ 進路意識の高揚</li> </ul>
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が自主的に学習に取り組む習慣を身につけるため、授業の質の向上に積極的に取り組む。また、個々の目標に応じた適切な進路指導を実践し、自己実現を目指す。</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互見授業期間を設定し、教員が相互に授業を公開し意見交換している。また、授業においてグループ・ディスカッションやペア・ワーク等のアクティブラーニングの視点を取り入れたり、タブレットなどのICT機器を取り入れたりすることで、思考力・判断力・表現力を育てる授業や主体性を持って多様な人々と協働して学べる態度を育てる授業等の指導法の工夫に努めてきた。</li> <li>・ 令和5年度入学生から、年間授業計画において観点別の学習の達成度目標を生徒に提示し、個々人の学習改善につなげられるようにしている。</li> <li>・ 具体的な進路目標を見つけ、目標に向けた主体的・計画的な学習に結びつける必要がある。また、困難な課題に直面したときに、安易な選択をする傾向があることから、より高い目標に自ら挑戦するよう進路意識を高める必要がある。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究の実施 一人2回以上の見学 (他教科の授業を1回以上見学)</li> <li>・ ①生徒の学習への取組改善の達成度 ②生徒の授業への主体的取り組み度 85%以上</li> <li>・ 1 学年：志望する学部や職種が定まっている割合85% (1月時点)</li> <li>・ 2 学年：具体的な志望校、業種がいくつか決まっている割合85% (1月時点)</li> <li>・ 3 学年：進路決定者の割合 98% (3月末時点)</li> <li>・ 生徒一人当たりの年間面接回数 1・2 学年 4回以上 3 学年 5回以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を互いに参観する機会を設け、計2回以上参観する。また、他教科の授業を1回以上参観する。</li> <li>・ 授業検討方法として授業参観メモの記入、時系列での授業分析を行う授業検討会を実施する。</li> <li>・ 授業研究における指導計画にアクティブラーニングの視点に立った活動やICT機器を効果的に利用した授業を取り入れ、学習の効果を高める。</li> <li>・ 1、2学期末に、生徒アンケートを実施。結果を分析し、教科部会等で評価方法や指導法を検討する。</li> <li>・ 進路指導部及び学年と連携し、考査、模試、検定試験、学びの基礎診断などを実施したあと個々の生徒や学年全体の結果分析を行い、学力向上に結びつく指導方法について検討する。</li> <li>・ 生徒の学習状況を踏まえ、令和6年度3学年用の年間授業計画表を作成する。</li> <li>・ HRや総合的な探究の時間を利用して、進路学習や進学講話、進路ガイダンスを生徒の実態に合わせて効果的に実施する。</li> <li>・ キャリアガイダンス(職業研究、学部学科研究、模擬授業)は、同窓会・PTA・地元企業や学校の協力のもと連携して行い、社会に貢献する姿勢と自己実現に向けての意識を高めるものとする。</li> <li>・ 進路意識の向上を支援する強化期間として面接週間を各学期初めに設定し、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。</li> <li>・ 受験情報やオープンキャンパスなどの情報を随時発信し、具体的な行動を促す。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究については、各教科が実施することができた。17名の教員が他</li> <li>・ 1 学年：87.8%</li> <li>・ 2 学年：80.1%</li> </ul>

	<p>教科の授業見学を行った。授業検討会では、授業の工夫できている点や改善点について話し合い、生徒の評価方法についての振り返りも行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「当てはまる」と回答した生徒は約54%である。「やや当てはまる」を含めると約95%である。</li> <li>②「当てはまる」と回答した生徒は約62%である。「やや当てはまる」を含めると約95%である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 学年：普通科 97.3% 商業科 97.5% (3月19日現在)</li> </ul>
<p>具体的な取組状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究では、思考力・判断力・表現力や主体性をもって多様な人々と協働して学べる態度を育てる指導法についての研修を目的に、タブレットなどのICT機器を活用する場面も着実に増えてきた。</li> <li>指導と評価の一体化を念頭に置いた考査問題の作成が定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアガイダンスや講演、県内企業訪問（「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』富山の企業魅力発見推進事業」の指定校として生徒輸送費の補助を受け実施）等を通じて進路意識を高めるきっかけを作り、担任による面談で細やかな指導を行った。（1年）</li> <li>オープンキャンパスへの参加、進路研修旅行やインターンシップを通じて進路意識を高め、面談により目標の設定と実現に向けての具体的な取り組みにつなげるように取り組んだ。（2年）</li> <li>進路実現に向けて面談の機会を増やし、生徒自身がその時々ですべきことを認識し、実行できるような指導を心がけた。（3年）</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究では、タブレットなどのICT機器を活用する授業が着実に増えてきている。また、生徒へのアンケートから、授業への主体的な取り組み、評価改善が概ねできていることが分かる。</li> <li>進路に対する意識と目標達成に向けての取り組み状況は、個人差が大きく、より細やかな個別指導を要した。職業観や大学等の入試制度が多様化する中で、効果的な全体指導の機会がさらに求められる。</li> </ul>
<p>学校関係者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業、授業検討会に積極的に取り組み、授業改善に努めている先生方の前向きな姿が見られる。</li> <li>指導案の簡素化、コーヒータム等を活用した授業検討会（全員参加は求めない）、メモでの意見等負担の軽減を図り、互見授業を継続し、授業改善に活かしてほしい。</li> <li>授業研究に関して、教員の負担を減らしつつも効果的な方策を見出している点も評価できる。今後は、アンケートで明らかになった点、できなかった理由を踏まえた改善策を検討できるとよい。</li> <li>面接の回数よりも内容が重要だと思う。必要な時、必要な生徒に関わってほしい。</li> <li>進路に関しての個人差や制度の多様化に対応するためにどうするかを、次年度へ向けての課題にもっと反映させてもよいのではないかと。</li> </ul>	

次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究について、気楽に授業を互見し学び合える体制を作る必要がある。教員が授業を見学する回数を増やし、教員の指導力向上につなげたい。</li> <li>生徒が主体的に学びに向かうよう、担任や学年、教科担当者がサポートする体制を整え、生徒が自分で課題を見つけ、問題解決する力を養う。</li> <li>大学等で学ぶ学問や職業を実際に体験したり見学したりする機会を増やす必要がある。</li> <li>受験に向けてクラス（学年）が一丸となって取り組むために、仲間意識を高める必要がある。</li> <li>個人面接をとおして、それぞれの生徒に現状と志望校との距離感を把握させるとともに、視野を広げさせていく必要がある。</li> <li>入試制度に関する正確な情報を全教員で共有し、保護者や生徒への情報提供を随時行う。</li> </ul>
------------	---

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)

令和5年度 新湊高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立と携帯通信機器使用におけるモラルの向上</li> <li>生徒の主体的な活動と部活動の充実</li> </ul>
重点課題	基本的生活習慣の確立と携帯通信機器使用におけるモラルの向上を目指す。部活動の充実化を図るとともに、行事等への参加をとおして学校生活に主体的、積極的に取り組む態度を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>「8時25分までには教室に入る。」という指導をしているが、しっかり守れない生徒がまだ多い。基本的生活習慣を確立し、時間に余裕を持って行動するといった意識を高める必要がある。</li> <li>携帯通信機器使用において、誹謗・中傷を受ける被害がある。加害者にも被害者にもならないように、使用マナーについて常に指導している。</li> <li>生徒会行事に積極的に参加する生徒は多いが、行事の企画・運営については生徒会執行部や教員が主体となりがちで、生徒一人ひとりの関わりは少ない。</li> <li>昨年度は部活動をとおして自分を成長させることができたと感じている生徒は87%と多かった。また、3年生の部活動継続率は78%と前年より高くなった。</li> <li>文化部の受賞が増え受賞件数は目標を達成しているが、運動部は受賞する部活動が固定化している。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>無断遅刻者の人数 1日平均0.5人未満</li> <li>通信機器に関するマナー違反件数 (年間5件以内)</li> <li>①生徒会行事に自主的かつ積極的に参加したと感ずることができる生徒の割合 90%以上</li> <li>奉仕活動や校外ボランティア活動を年2回以上実施した部の割合 50%以上</li> <li>各種大会やコンクールで受賞した件数 150件以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「8時25分までには教室に入る。」という指導に変更し、授業の準備を行うという意識を高める。また、遅刻常習生徒に対しては、家庭との連携を密にし、粘り強く指導する。</li> <li>生徒会や自律委員会を中心に、携帯通信機器におけるマナーやモラルの意識を高める。</li> <li>生徒会のテーマに沿った企画を委員会や学年、学級、部活動等に立案させる。</li> <li>各種行事における個や集団の役割を理解させ、主体性や積極性を高める。</li> <li>生徒会執行部がボランティア活動を推進するとともに、各部活動でもボランティア活動を計画したり実施したりして部活動との関わりを深めることで、部活動の充実度や継続率を高める。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会費や特別活動等助成費を有効に活用して環境整備を充実させて、生徒の積極性や技能向上、活動の効率化を図る。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとの1日平均無断遅刻者数 1学期・・・0.74人 2学期・・・1.05人 3学期・・・0.89人 年間・・・0.89人</li> <li>通信機器に関するマナー違反 2件 ネットパトロールからの報告 1件</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒会行事の自主的かつ積極的参加した 1学年97% 2学年95% 3学年94% 全体95%</li> <li>部活動で奉仕活動やボランティア活動を年2回以上実施 0回68% 1回11% 2回以上26%</li> <li>受賞件数 203件 (3月11日現在)</li> </ol>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝8:25～8:35まで遅刻指導を行い、朝礼5分前の8:25には、登校が完了するよう指導している。</li> <li>外部から講師を招き、「スマートフォン・携帯電話の正しい使い方」について指導をしてもらったり、自律委員会を中心となったりして、スマートフォン使用に関してのルールを徹底させるためのポスターを作成している。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大きな行事として体育大会、新高祭を生徒会が主催して行った。どちらの行事もコロナ前の内容にほぼ戻すことができ、生徒たちの主体的な行動も多く見られた。生徒の満足度も高かった。</li> <li>3年目の取り組みであるが、2回以上の実施率は昨年度とほぼ同じであった。しかし、秋に新高祭があり、生徒たちが忙しかったため各部でボランティア活動を行う日が設定しづらかった面が考えられる。今後、実施しやすい取り組みを行っていきたい。</li> <li>文化部の積極的な参加、運動部の北信越・全国大会の出場等で受賞数が増えた。</li> </ol>
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>無断遅刻者の人数が目標を達成できなかった。</li> <li>通信機器におけるマナー違反件数は目標数値内であったが、いじめに発展する誹謗中傷、動画をSNS投稿した肖像権の侵害があり、この2件は重大な問題であった。</li> <li>ネットパトロールからの報告は1件あったが特に問題とするものではなかった。</li> <li>どの行事も生徒会執行部を中心に委員会や部活動、各係が主体となって活動していた。体育大会、新高祭はコロナ前の規模で実施することができ、生徒たちの積極的に取り組む姿が見られた。</li> <li>ボランティア活動の目標は達成できなかったが、コロナ禍で数年途絶えていた吹奏楽部による保育園でのボランティア演奏ができるようになった。(3月に2回)</li> <li>運動部・文化部とも受賞件数が多くなってきている。</li> </ul>
学校関係者の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度への課題「時間を守る」「規範意識を高める」等あるが、今年も取り組んでいたことである。これらの何が課題であったのか明記して欲しい。</li> <li>目標数値は達成できてはいないものの、遅刻者数は全体的に少ないように感じた。</li> <li>奉仕活動やボランティア活動を年2回以上実施した部の割合が達成目標にあげられている。ボランティアに参加することが目標ならば、部活動への加入率が低くなる中で、この目標は妥当なのか、検討して欲しい。</li> <li>次年度以降部活動が強制できなくなった時に、どのように部活動を活性化させ、入部希望者を増やすかが検討点かと思う。部活動を通じて成長を感じている学生の経験・体験を新入生に知ってもらえると、希望者が多くなるのではないかとも思う。</li> </ul>
次年度に向けての		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活に慣れてくると、遅刻が増えたり、ベル着ができなかったり、学習時間が確保できなかったりする生徒が増えてくるので、そのような生徒には時間管理の</li> </ul>

課題	<p>大切さを指導する必要がある。問題行動やいじめには、スマホやSNSがかかわっているケースが多いので、ネット教育や校内のルール作りが必要である。また、HRや学校行事、部活動などの機会を通して、人の立場や心情に立って配慮した振る舞いができる生徒を増やすように努めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の加入率は2年生が91%、3年生が85%で学年が上がるにつれ加入率は低くなっている。一方で部活動で「成長を感じられた」と答えた生徒は1年生が84%、2年生が90%、3年生が97%となっており、3年間継続して活動を行った生徒の充実度が高いことが分かる。中学校では、部活動の地域移行が進行しており、今後数年で部活動に対する生徒のニーズにも変化が現れてくることが予想されるが、部活動で成長したと感じている生徒は数多くいるので、今後も部活動の充実に向け、生徒たちが成長できたと感じられるような活動となるようにしていきたい。</li> </ul>
----	--

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)